



Title	「安全な水を世界の人へ」
Author(s)	水野, 花菜子
Citation	目で見るWHO. 2013, 52, p. 25-27
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/86723
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka



「安全な水を世界の人へ」

水 野 花 菜 子



Kanako MIZUNO

日本ポリグル株式会社 ソーシャルビジネス担当

2012年横浜国立大学大学院 国際社会科学部経営学修士課程修了。ビジネスと国際協力の新しい関係であるBOPビジネスに興味を持ち、大学院では主にBOPビジネスと支援策のあり方について学んだ。

POLY-GLU SOCIAL BUSINESS 株式会社兼務、途上国向けものづくりコンテスト:See-D contest 実行委員。

民間企業が社会的課題に取り組んでいく事例を紹介させていただきます。

●世界の水問題

私たちは毎日、顔を洗ったり手を洗ったり、水を飲んだりしますが、世界にはきれいで安全な水を使えない人が約8億8,400万人います。日本の人口の約7倍です。

●水系感染症

細菌やウイルス等で汚染された水を飲んだり使ったりすることで、その細菌に感染しておきる病気を「水系感染症」といい、コレラ、細菌性赤痢、腸チフス、大腸菌下痢症などがあります。世界には、不衛生な水や環境が原因による下痢で死亡する子どもが毎年180万人います。これは、2番目に多い子どもの死因です。毎日約5千人弱の子どもが、下痢のせいで亡くなっている。

不衛生な水を使うということは、こういった事態を招いているということです。

●「水質浄化剤」

弊社の「水質浄化剤」PGα21Caを汚い水に入れてかき混ぜると、このように水の中の不純物や汚染物質がかたまりとなって沈みます。この沈んだかたまりを取り除くことで、きれいな水をつくることができます。

このような水質浄化剤を扱っている弊社ですが、そのミッションは“Safe Drinkable Water for All”「世界中の全ての人に、安全な飲み水を届ける」ということです。

元々は国内の水処理を主に行っていましたが、タ

イやバングラデシュの災害援助をきっかけに我々の技術は途上国でこそ役に立つということに気づき、途上国という市場に進んでいくことになりました。

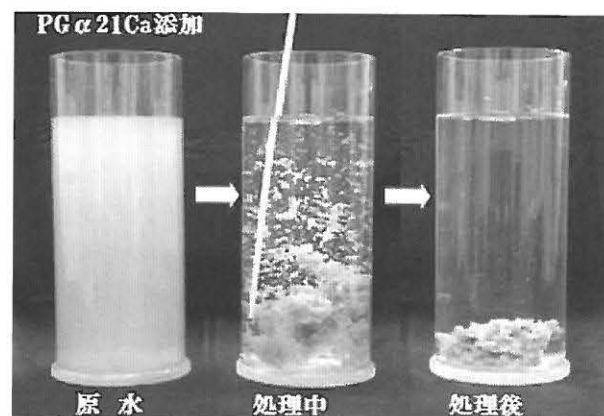


図1 水浄化のメカニズム

●バングラデシュで

途上国での事業を進める中で、特に大きかったのはバングラデシュで、経済産業省の公募案件に採択され、現地調査や実証実験などを支援していただけましたことです。

バングラデシュ 経済産業省の公募案件に採択
平成21年度社会課題解決型の官民連携プログラム（F/S調査）採択
平成23年度貿易投資円滑化支援事業採択

↓
日本政府の助成を得て事業は大きく飛躍を始める



図2 経済産業省の公募案件に採択

これらの支援により、バングラデシュの事業は大きく進みました。バングラデシュでは、ポリグルレディやポリグルボーイと呼ばれる現地の人に、浄化剤や浄化した水の販売、そして（弊社では浄化剤に加えて、浄化剤を用いて水を浄化する浄水装置も取り扱っているのですが、その）浄水装置の運用などをしてもらっています。

ポリグルレディ

→ 浄化剤の販売
→ 啓蒙活動



ポリグルボーイ

→ 浄化装置の運用
→ 浄化水の販売・集金



水問題の解決・現地雇用の拡大

図3 ビジネスモデル

水問題に取り組むだけでなく、現地の雇用創出も行っているのです。そして、ビジネスとして受益者・消費者から料金をいただくことでお金を循環させ、持続的な事業を行っています。弊社のビジネスにおいて、買い手はきれいな水をのみ、健康になれる。売り手は働いて、収入を得ることができる。そうして水問題と貧困問題が改善され、地域社会全体が豊かで健康になる。つまり売り手よし、買い手よし、地域社会よしの win-win-win な関係をつくっているというわけです。

ソマリアの案件では、弊社は国際移住機関:IOM

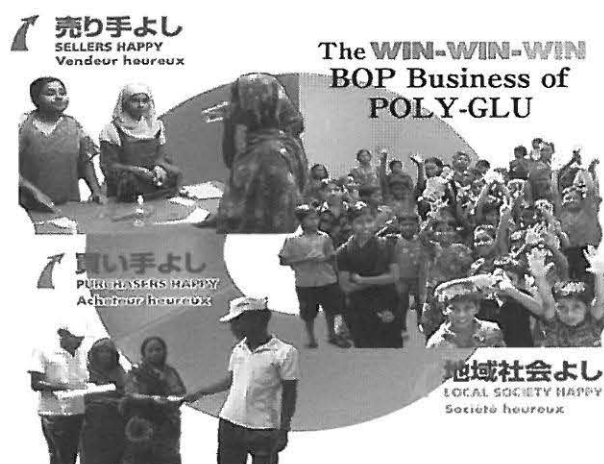


図4 win-win-win な関係



図5 ソマリアの浄水装置

という国際機関から受注し、JICAと共に、ソマリアの国内避難民キャンプでの給水事業を始めました。2か月で8カ所の浄水装置をつくりました。



図6 難民キャンプの様子

これは難民キャンプの様子ですが、川の水を生活用水にしているのですね。水が濁っていて難民キャンプ内での人々の健康状態、衛生状況が良くないということでこの事業は始まりました。まずセミナーで浄化剤の効果を見てもらいます。そして浄水装置の設置を始め、給水を始めました。現在は13カ所に浄水装置を設置しています。そこでは100名以上の現地の人々が浄水装置の作り方や、水処理の技術について学び、習得しています。

今後1年の内に、新たに50カ所の浄水装置をつくる予定です。

●タンザニアで

続いてタンザニアの事例についてです。

タンザニアの案件はODAを用いた支援を受けスタートしました。ここでは小学校に浄水装置を設置

し、住民が飲み水にしている川の水を浄化すること
にしました。こちらが完成した浄水装置の写真です。



図7 タンザニアの一般用の浄水装置

この浄水装置は一般の方用なのですが、タンザニアでは別のサイトで、水売り人専用の浄水装置もつくりました。タンザニアでは、今年中に新たに6ヶ所の浄水装置を設置する予定です。



図8 水売り人専用の浄水装置

ここまで弊社の取り組みをご紹介してきましたが、これ以外にも、世界に安全な水を届けるために、様々な組織で様々なアプローチがとられています。その中で、国連や国際機関、NGO/NPOなどだけでなく、民間企業による取り組みも増えてきていて、弊社はその一つの例です。



図9 世界に安全な水を届けるために...

大切なことは、組織の垣根をこえて一丸となって取り組むということだと考えています。特に、私たちのような中小企業だけでは、このような大きな課題、困難なフィールドに挑むことは非常に難しかったでしょう。ご紹介したように、外務省や経済産業省、JICA、JETRO、IOM など政府や様々な組織のご協力があったおかげでポリグルは今、大きな挑戦をすることができています。世界に安全な水を届けるために、これからも All Japan で取り組んでいけたらと思います。